

競技力向上、健康増進を後押し

スポーツ通じ 地域活性化 天草市と包括連携協定

子どもたちの競技力向上や健康増進、市民の健康づくりなどを目指す包括連携協定が11日（木）、本学と天草市の間で結ばれました。本学が持つスポーツ医科学における分析体制や保健医療の分野で同市のスポーツ、健康・保健施策を後押ししていきます。



調印式後、記念撮影する天草市と本学の関係者

同市は昨年4月、市スポーツコミッションを立ち上げ、競技力の向上、健康増進に向けた環境づくりを進める一方で、スポーツを通じた交流人口の増加による地域活性化を目指しています。今年7月には同コミッションの拠点施設となる市陸上競技場の供用も開始されます。

協定は本学が毎年夏、水上村で行っている、合宿中の高校生や実業団ランナーに対するフィジカル・メンタルチェックや栄養指導に着目した同市からの申し入れで実現しました。

同市役所であった締結式には、本学から木下統晴理事長、竹屋元裕学長ら7人が出席。馬場昭治市長と木下理事長が協定書に署名しました。引き

続き、馬場市長が「お互いの役割を尊重し、多様な取り組みにしていきたい」とあいさつ。木下理事長は「長期的な視野で取り組み、共に健康長寿につながる活動にしていきたい」と語りました。

協定締結により、本年度は秋に開催が予定されている市の学童陸上大会で、本学スタッフが上位選手のフォーム解析にあたるほか、年明けには合宿形式でのフィットネスチェックを予定しています。

本学はこれまで、熊本市、合志市、阿蘇市、水上村の計4自治体と包括連携協定を結んでいます。（NL編集部）



7月に供用開始される
天草市陸上競技場



協定書に署名する木下理事長（右）と馬場市長

伸び伸びと笑いヨガ実践、文献調査も

笑いやユーモアは健康にいい効果があると言われています。江上史子講師が担当する本セミナーには、笑いやユーモアの健康への効果を知り、自分自身や家族、友人など周囲の人たち、将来は医療や介護の対象者への健康支援にも活用できるようにとの願いが込められています。

10日（水）の講義では、冒頭、江上講師の掛け声に合わせて「笑いの健康体操」と言われる「笑いヨガ」を実践。学生たちは取材カメラに緊張したのか「普段より声が小さかった」とのことでしたが、笑顔で体を動かしていました。今後は実践だけでなく文献等の調査を行い、笑いやユーモアの健康への効果を探究します。

江上講師は「笑いヨガの効果について、楽しくなくても、皆で笑うことで気持ちの安定や免疫力アップにつながるという研究結果がある」と話していました。（入試・広報課）



江上講師の指導で笑いヨガに挑戦する学生たち



「学習」から「学修」へ意識転換を

河瀬事務局長
久保田課長

教壇から初年次生に呼びかけ

アカデミックスキル
支援センター

レポート

初年次生に充実した学生生活を送ってもらうことを狙った「基調講義」を5月第1～3週にかけて実施し、一昨年度、昨年度に続き、河瀬晴夫事務局長（写真左）と久保田憲寿入試・広報課長（同右）が、それぞれ「大学生の学修マインド」、「伝える力」と題して講義を行いました。

全学必修科目「アカデミックスキルI」の一環として実施。河瀬局長は高校までの「学習」と大学での「学修」の違いや、「生徒」と「学生」の意味に触れながら、学びへの意識の転換を求めました。また、受講生に「どのような姿

勢で学修に臨むか」という自分自身への宣言文を書かせ、「4年間の糧にしてほしい」と呼びかけていました。

一方、久保田課長は、実際のエントリーシートや履歴書を示しながら、「（就職活動では）伝える力の差が顕著に出る」と力説。面接やメール送信などにも触れながら「伝える力は目標を達成するための手段。目的が明確でなければ、伝える力も不十分なものとなる」と語り、学生たちにエールを送っていました。

（NL編集部）



伊山 聡子
看護学科助教

私は臨地実習における看護大学生の動機づけや学習方略、自己効力感に注目し、活動に影響する要因や学習プロセスの研究をしています。実習での学習方略として、事前学習や看護技術練習、個別性のある看護実践は、自己効力感や可視化が難しい動機づけを高める可能性があることから、実習で学習方略を活用できずにいる学生に対し学習プロセスに働きかけ続けることが重要と考えています。学生の学びが深まる実習の支援者であり続けたいです。



早木 幸江
看護学科助教

私は、精神科看護師を対象としたストレス志向の支援態度 [その人らしさを尊重し、強みに着目する] に関する調査研究や、精神科訪問看護管理者を対象としたコンピテンシーに関する研究を行ってきました。今後は、精神科看護師の能力開発プログラム作成に向けた質的研究や介入研究を行うなど、精神科医療に寄与できるような研究課題に取り組んでいきたいと考えております。

精神科看護師の能力開発



実習効果高める支援者に

銀杏アラカルト

「プチ・サポーター登録説明会」が10日（水）、150IM講義室であり、3回の説明会に計56人の希望者が集まりました。

「プチ・サポーター」とは、大学生生活の様々なシーンでサポート活動をしている「ピア・サポーター」候補学生のことです。

◆「誰かのために…」 プチ・サポ説明会

1年次に養成講座等に参加し、グループワークや学生交流を重ねることで、2年次から初級ピア・サポーターとして活動することができず。

登録申込書に書かれた志望動機には、オープンキャンパスや新入生オリエンテーション、履修登録相談会でのピア・サポーターたちの活動を見て興味を持った、自分も他者を助けたい、という内容が多く見られました。これから先輩たちと共に学び、交流を深め、ピア・サポート活動を盛り上げていってほしいと思います。（学生相談・修学サポートセンター）



開会式であいさつする
古閑特命副学長

◆西里校区グラウンドゴルフ大会 西里校区グラウンドゴルフ大会が4月30日（日）、本学グラウンドで行われ、職員3名が西里校区グラウンドゴルフ協会の人たちとプレーを楽しみました。協会の会員人数は150人ほどということで、今回も100人以上の人たちが参加しました。本学での大会は毎年春と秋の2回開催されています。ご興味のある方はぜひご参加ください。（地域連携委員会）



健康チェックコーナーで訪れた人たちの
血圧を測る学生たち

◆フラワー&フーズフェスティバルで健康チェック 「フラワー&フーズフェスティバル」が6日（土）、7日（日）にフードパル熊本で開催され、本学も健康チェックコーナーを開設し4年ぶりのフェスタに花を添えました。同コーナーではボランティア学生たちが体成分測定、骨密度測定、血圧測定の3項目を希望者の方に実施。あいにくの雨のため、1日目は75人、2日目は63人と出足は鈍かったものの、丁寧な説明に喜んでいました。（地域連携委員会）

高い関心 交換研修への申込者が急増

韓国の大邱保健大学とタイのコンケン大学との交換研修への申込者数が本年度はコロナ禍前に比べ2倍近くに急増しました。学生の国際交流への関心の高さがうかがえます。

本年度は、大邱保健大学（8月16～26日）に学科専攻ごとに2人ずつ、コンケン大学（9月7～20日）には医学検査学科、看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻から各2人を派遣する予定です。また、8月10～19日に大邱保健大学で開催されるGlobal Healthcare Leadership Program2023にも学生4人を派遣します。

コロナ禍前から
倍増72人応募

これに対し、5月2日（火）の締め切りまでに72人が応募。コロナ禍前の40人前後と比べ、本年度はかなり狭き門となりそうです。今後、書類選考と面接選考を経て派遣学生を決定します。

一方、コンケン大学から6月1～14日に4人、大邱保健大学からは7月1～12日に8人の交換研修生を受け入れます。受け入れ期間中は、学内で授業に参加したり、学外施設を見学したりします。さらに、7月4日（火）には大邱保健大学医学検査学科の学生・教職員約30人が本学医学検査学科を見学に訪れます。（NL編集部）



スコップケーキ

スコップケーキという大好きなケーキがあります。スプーンですくって食べるケーキのことです。深い容器に入っていて、切り分ける手間もいらずスプーンひとつで食べることができるので、手を汚すこともありません。何よりもスプーンを使うと楽しくて、贅沢な感じがします。しかも、より美味しく感じるから不思議です。

私は誕生日にはホールケーキをよく買ってもらいます。家族や友だちとケーキを囲むわけですが、切り分けることはしません。直接スプーンを使って食べるのです。誕生日にしか食べることはないホールケーキだ



リハビリテーション学科生活機能療法学専攻2年 岡村 真来

からこそ、スプーンを手に和気あいあいと囲みたいものです。とても贅沢で幸せだになって感じますよ。

ホールケーキを食べる機会は少ないと思うけど、ぜひ一度は切り分けずに食べてほしいものです。

今年の誕生日にはどんなケーキを食べようかと、今から迷っています。もちろん、食べ方には迷いはありません。今年もスプーンでケーキを食べるつもりです。待ち遠しいな。

（アカデミックスキル支援センター・学生広報スタッフ）